

47回生 受験体験記

豊明高校進路指導部編

この春、豊明高校を卒業した47回生の先輩たちの受験体験記・実習体験記をまとめました。新しい門出の準備で忙しい中、君たち後輩のために原稿依頼を快く引き受けてくれました。様々な進路を選択した先輩たちのメッセージを受け止めて、皆さん自身の進路選択・進路実現に役立ててください。

★国公立大学受験体験記★

『受験を乗り越えて得られたもの』 1組【理II】 (福井大学 工学部 物質・生命化学科)

私は高2までは受験勉強よりも定期テストに力を入れていました。その頃は勉強した分だけ結果が出て、こんな感じで受験もうまくいくと安直な考えをもっていました。

実際に受験勉強を始めるとそんなうまくはいかず、それに気づいたのは高3の春でした。先生方からみたら遅すぎて呆れられるほどだと思えます。受験勉強を始めると足りないものが浮き彫りになり、それからかなり焦って自習室や図書館に頻繁に通いました。しかし点数は上がっても偏差値は思うようには上がらず、指定校推薦に変えようかと迷っていました。それを担任の先生に相談したときに「確かに君の内申なら指定校推薦は取れると思うけどまだ挑戦してもいいんじゃないか」という言葉や友達からの励ましもあり、国公立大学を受験しようと思えました。

夏休みには自習室にほぼ毎日通い、講座がある日は5、6時間ぐらい、講座がない日には1日10時間以上勉強していたと思います。それもあって徐々に結果に繋がっていきました。

福井大学工学部の公募制推薦入試は今回から初めて取り入れられたもので、どのくらいの受験者がいて、どのような面接や口頭試問がくるか全くわからなく不安でした。こんなこともありました。長沼校長先生や加藤先生、その他にもたくさんの先生方の協力があり、面接練習をしていく中で徐々に不安が自信に代わっていきました。そして合格することができました。

私はこの経験を経て大きく成長できたと思います。人間誰しも変化を嫌い、現状維持を好みます。しかし居心地のいい空間から抜け出したときに人は大きく成長できると思います。高1、高2では受験のイメージがわからないかもしれませんが、自分の好きな教科からでもいいので受験勉強を意識してみると見える世界が変わると思います。皆さんの思い描く進路で桜が咲くことを祈っています。

『挑戦』 1組【理II】 (愛知教育大学 学校教員養成課程義務教育専攻 ICT活用支援専修)

私は高校3年生になるまで、課題以外の勉強をした事が無く、塾にも通っていませんでした。その為、自学自習の経験が無いまま、受験生活が始まりました。また、勉強しても結果が変わらないのでは

ないかという思いから、危機感もありませんでした。

そんな中受けた第1回全統模試、結果は残酷でした。この時から私は危機感を持ち、勉強を始めました。最初は取り敢えず問題集を進め、単語帳を見るだけの「なんとなく勉強する」状態でした。夏休みが終わるまでこの状態は続き、勉強時間は確保できるようにになりました。9月の私は学校行事で忙しく、思い通りにいかない事が多かったです。全く勉強しなかった日もありました。急げてしまう自分に罪悪感がする日々でした。しかし逆に、どうしたら急けないか、どうしたら結果が出るか考える機会にもなりました。自分で勉強内容の工夫をし、勉強の質を見直す事が出来ました。それでも、自分の目標の偏差値に届く事はありませんでした。

私が始めて納得のいく結果が出たのは、共通テスト本番でした。ここで成功体験を積む事ができたおかげで自分に自信がつき、個別試験に繋がりました。個別試験は苦戦しましたが、合格を掴む事ができました。

正直私は、受験勉強を楽しいと思う事は一度もありませんでした。実際、自宅の中では毎日文句を言いながら勉強をしていました。上がらない成績に心を折られ、何度も諦めそうになりました。自分より早く受験が終わった友達をうらやましく思うこともありました。その一方で、受験生活の中で得られる物もありました。

人は辛い経験をしてこそ成長します。経験を積む為に、まずは「取り敢えず」やってみる。成功も失敗も、自分の学びとして必ず残ります。皆さんの受験が、自ら挑戦し、大きく飛躍する機会になればと思います。

『やれば必ずできる』 3組【文II】 (名古屋大学 法学部)

自分なりにした努力が目に見える成果として現れて、とても嬉しいです。この体験記のタイトルは、ある先生に言われてすごく力になった言葉です。私は1度も塾などに通うことなく、第一志望校に合格することができました。私が大学受験を通して得たことがこの体験記を読んでくださっている皆様の役に立つことができれば幸いです。

私が志望校をはっきりと決めたのは2年生のときでした。もともと将来の夢はなく、高校卒業後何をしたいのかを深く考えたことはありませんでした。しかし、総合探究の時間に学部調べて複数の学部を比較していくうちに法学部に興味を持ちました。自分の将来について考えた結果、弁護士になりたいと強く思い、名古屋大学に挑戦することを決めました。2年生や3年生の初めの頃は模試でもC判定やD判定で、自分には高すぎる目標だと思っていましたが、先生方が頑張ろうと声をかけてくださり、一生懸命勉強することができました。私は、特に英語と数学に力を入れていました。1年生のときに受けた模試では、英語の偏差値は50もなく苦手科目でしたが、高校3年間で偏差値を20以上あげることができました。2年生までには、単語や熟語、文法を完璧に

するように決め、基礎を徹底しました。3年生になり、力がついてから英文解釈を始め、夏くらいから本格的に長文を読み始めました。長文も読んで終わりではなく、1文ずつ構造をとり、分からないところがあれば先生に質問しました。文章を読んでいて分からない単語や表現があれば、自作の単語帳ノートに書いて、絶対に覚えるようにしていました。英作文は使える表現を暗記し、簡単な単語や文法で書く練習をしました。ご飯を食べるときや歯磨きをするときには英語の音声を流し、たくさん英語に触れました。数学は、2次試験は記述式だったので、わかりやすい解答を作ることを心がけました。1年生の時から数学の課題やテストでは、先生方から記述の指導を受けることができ、そのおかげで記述力を身に付けることができたと思います。分からない問題があった時は、答えを全て見るのではなく、1行だけ見てなるべく自分の頭を使って解けるように工夫しました。

私が共通テスト対策に力を入れ始めたのは11月後半でした。予備校が出版している実践問題集や、過去問をひたすら解きました。共通テストは時間配分が重要だと思います。問題を解く際は、必ず時間を測り、大問ごとに解くのにかけた時間や、点数を記録していました。記録に残すことで自分のできないところが見えるようになり、点数を伸ばすことができたので是非やってほしいです。また、市販のマークシートを買い、マークミスをしない練習もしました。共通テスト後はすぐに志望校の過去問を解くのではなく、簡単な問題集から徐々にレベルを上げて過去問に取り組むようにしていました。どの教科も自分の解答を先生方に添削していただいたり、模範解答と自分の解答を見比べたりして、自分に足りないものを補えるよう勉強しました。

勉強方法以外では時間を大切にしてほしいです。時間の使い方により人生は大きく変わります。私自身、受験を経験したことで時間に対する認識が変わりました。今まではスマートフォンで時間を浪費していましたが、それでは自分のためにならないと気づきました。この気づきを得られたことは、大きな収穫であると思います。時間は有限なので、この受験体験記を読んでくださっている皆様には、記憶に残るような時間の使い方をしてほしいと思います。このことは私が最近読んだ『このプリン、いま食べるか？ガマンするか？ 一生役立つ時間の法則』という本でも述べられていました。私は表紙と本のタイトルに惹かれてこの本を読みました。人生は喜びを得て幸せを感じられる「幸福の時間」、目的のために努力する「投資の時間」、やらなければいけないことをする「役割の時間」、ムダに過ごしてしまう「浪費の時間」の4つで構成されています。「大学に合格するために勉強する」というのは、「投資の時間」に含まれます。この投資の時間を楽しんで幸福の時間を増やすことが人生において1番大切であるとありました。私はこれに納得しました。私は受験勉強を大学合格という目的を達成するための手段としてではなく、楽しいものとして捉えるよう心が

けていました。多くの科目を勉強することで自分の考え方が多様になり、様々な価値観を受け入れられるようになることを実感できました。辛い時間でも、自分の捉え方次第で価値のある時間に変えることができると思います。

また、私が受験において最も大切だと感じたのは、気持ちの切り替えです。私自身、共通テストで目標点を取れなくてボーダーに届かず、共通テストリサーチの判定も自分が期待していたものではなく、かなり落ち込みました。自分の失敗を引きずってしまい、なかなか切り替えることができませんでした。毎日、自分の努力が足りなかったと後悔してばかりでした。しかし出願する大学を決める面談の時、担任の先生が「受かるう」と言ってくださり、最後まで諦めずにやり抜くことができました。担任の先生だけでなく、多くの先生が温かい応援の言葉をかけてくださり、二次試験に向けて気持ちを切り替えることができました。思うような結果が出ずネガティブになり、自分だけでは前を向けないことも多いと思います。そんな時は周りの人を頼ってほしいです。私は、先生方と話すことで心が軽くなり、モチベーションを保つことができていました。支えてくれた方々に合格報告をしたいという気持ちを常に持ち続けていました。実際に合格報告ができ、泣いて喜んでくださった先生や握手、抱擁をしてくださった先生がいて、必死に頑張ったよかったと思うと同時に、これまでの人生で1番の幸福感を感じました。この1年は、進路が決まらない不安や時間が無いという焦りを感じながら過ごし、精神的にも身体的にも辛かった年でした。勉強しても分からないという苦しさに向き合うのが1番辛かったです。それと同時に、18年の人生の中で、1番努力した年でもあり、1番充実していた年だったと思います。改めて、周りの人の優しさを実感しました。これからの人生で、周りの方に対する感謝の気持ちを忘れず、謙虚な姿勢で常に学び続けたいと思いました。

私は豊明高校に進学して本当に良かったと心の底から思っています。たくさん優しく温かい先生方と3年間一緒に勉強をできてとても幸せでした。先生方には感謝してもしきれません。私は豊明高校が大好きです。私は環境に恵まれていましたが、どんな環境にいたとしても、可否を決めるのは自分の努力です。後輩の皆様の努力が報われることを願っております。「絶対に合格する」という強い気持ちをもって自分の力を発揮してほしいです。やれば必ずできます。諦めないで夢を掴んでください。拙い文章でしたが、最後まで読んでくださりありがとうございました。

『約半年で国公立大学合格へ』 3組【文II】 (金沢大学 人間社会学域 学校教育学類)

私は高校3年生の夏まで野球部に所属していたため、夏休みから本格的に受験勉強をはじめました。それまでは、定期テストに真剣に取り組むことだけで、受験勉強はしていませんでした。そのため、少ない時間で成績を伸ばすためには、効率的に学習することが必要だと考えました。具体的には、その日

に勉強した内容を夜に復習し、次の日の朝にもう一度復習するなど、やりっぱなしにしないようにすることです。また、私は学習塾には行かずに学校の講座や参考書などで勉強していました。そのため、何が必要で何をやるべきかを自分で考え、分からない部分は学校の先生に聞いていました。やらされる勉強ではなく、自分で考えて勉強することが、成績アップにつながると思います。

国語はすぐには伸びないため、早く取り組み毎日問題を解くようにしました。国語は、復習が大切だと思います。現代文の復習は、自分なりに要約し、本文の趣旨を捉えてから答えを見るようにしていました。古文は単語と句形を覚え、問題を解くことが大切です。古典の復習は、主語を捉えることと全文を現代語訳すること、知らない単語や古文常識が出たときにその場で覚えることを意識していました。共通テストでは、小問一つの配点が大きい国語が重要だと思います。また、過去問は何回も解くといいと思います。何回も解くことで、その学校の特徴を把握でき、対策しやすくなるからです。

受験勉強をしていると、焦りや不安などが出てきます。そういう時は、1日だけ趣味に没頭すると思います。つらいときは、つらいまま頑張るのではなくつらさが和らぐ方法を見つけ、気持ちをすぐに切り替えることが大切だと思います。私は、2次試験の2週間前ぐらいに不安を感じました。その時、大学についてSNSで調べたり、将来の夢を思い浮かべたりしたことで「この大学に行きたい」という気持ちを思い出すことができ、乗り越えることができました。

志望校の特徴を捉え、自分を信じられるまで勉強し、最後まで諦めないことが、合格に繋がると思います。

★私立大学受験体験記★

『何事も主体的に』 2組【理1】 (愛知医療学院大学 リハビリテーション学部 理学療法専攻)

私は、愛知医療学院大学のリハビリテーション学部理学療法専攻に合格しました。しかし、合格するまでに様々な壁にぶつかり、沢山の人の支えを借りました。

私が受験を経験した中で一番大きな存在だったのが、大学受験を経験している先生方や先輩などの大人の方たちです。面接練習や小論文指導を何度もお願いし、自分に自信がつくまで付き合ってくださいました。受験を受けた身として、必ずそういった大人たちを頼ることがとても大切だということを身を持って感じました。自分からお願いすることは何も恥ずかしくありません。先生方は進路についてとても熱心に考えてくれます。この恵まれた環境にいることを忘れないでほしいです。感謝の気持ちを持って、理想の進路に進んでいってほしいです。

もう一つは、何事にも主体的に取り組むことが大切だと感じたところです。勉強も誰かにやらされてやったり、なかなか自分から進んで机に向かうこと

が難しい人も多いと思います。私自身もやる気を出すのにとっても時間がかかってしまっていました。そこで、自分のなりたい未来の自分を想像してみてください。自然に緊張感を持つことができ、モチベーションをあげることに繋がります。また、行きたい学科のある大学や専門学校を事前に調べ、三年生が始まるまでにはある程度絞っておいたほうがいいと思います。

最後に、進路を実現するのは自分自身です。受験に受かるまでは、とにかく勉強を続けて、決して諦めることなく取り組んでください。勉強にゴールはありません。満足することなく、まわりに支えられているという自覚と感謝の気持ちをもって頑張ってください。

『受験を乗り越えるためにやったこと』 5組【文1】 (愛知淑徳大学 グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科)

この受験体験記で、私が受験を経験してみて何が特に大変でどうしていたかを伝えます。

受験の大変なところはいくつかあるのですが、やっぱり1番辛いと感じたことは、受験は長期戦だということです。受験勉強は数ヶ月から数年、毎日コツコツと勉強を続けることが必要です。私はこれを乗り越えるために、趣味の時間と勉強の時間の区別をはっきりさせ、しっかりリフレッシュすることで、長時間勉強に集中することができました。これの次に大変だったのは、精神的プレッシャーがとてもかかることです。「合格しなければ」というプレッシャーからもっと勉強しなければと思い、夜遅くまで勉強して睡眠不足になり、学校を休んでしまうことがありました。さらに、周りの人と比較してしまいストレスを感じるものが結構ありました。ですが、受験の仲間を見つけ一緒に勉強したりしてからは、周りの人と比較することも少なくなり、プレッシャーも仲間がいることで和らぎました。なので、精神的プレッシャーがかからないようにするためには、一緒に受験を乗り越える仲間は絶対に必要です。

私が受験で思った大変なことは以上です。最後にアドバイスのことで、目標は高く見積もることで、必ずおつりがきます。皆さん受験勉強頑張ってください。応援しています。

『自立した生活を』 6組【文1】 (愛知大学 法学部)

私が愛知大学を選んだ理由は、地元をよりよくしたいという目標を叶えられると考えたからです。オープンキャンパスに参加した際、愛知大学の学生が過疎地域の活性化のため、グループでその地域の特性や伝統を調べ、どうしたら活性化させることが出来るかを考え、発表するという活動を行っていることを知り、自分の目標に近づけると感じました。そして、愛知大学に入学するためには勉強が必要です。私は勉強する際、理解するだけでなく、自分1人で解けるようにするという目標を持ちながら取り組みました。一度必ず自分で解き、それから分から

なかった問題は先生や家族に協力してもらい、理解できるまで説明してもらいました。それからもう一度自分で解くことが、重要です。反復して問題を解くことで問題を自分のものに出来ました。私は、自分の将来の目標へ近づくためのひとつの道として、勉強に取り組みました。そして、大学でこれから新しく学べることを楽しみにしながら、今できる最大限のことをします。

★看護系学校合格体験記★

『挑戦』

3組【文II】

（日本赤十字豊田看護大学 看護学部 看護学科）

私は公募推薦入試で日本赤十字豊田看護大学に合格しました。

私が日本赤十字豊田看護大学を志望した理由は、災害看護に力を入れた教育を受けられるからです。私は、災害が起こった際、助けを必要とする人を助けられる看護師を目指しています。したがって、災害看護について詳しく学べるこの大学に進学したいと考えるようになりました。

推薦入試の受験科目は、英語・小論文・面接でした。その中でも私は面接に苦労しました。日赤の推薦の面接は3分間話し続けます。最初は3分の長さの感覚がなかなか掴めませんでした。また、どんなことが聞かれるかわからないため、即興で話すしかなく、言葉が詰まってしまい苦労しました。入試前の1週間は毎日色々な先生に面接練習にお付き合いいただきました。その甲斐あって、本番では落ち着いて話すことができました。

合格発表は学校で見ました。スマホをタップすると浮かび上がってきたのは合格の文字です。お世話になった先生方にも報告に行くと、皆が皆喜んでくださり、とても温かい気持ちになりました。ある先生に「あの面接でよく受かったな」と言われるくらいボロボロな状態からのスタートでしたが、合格の報告を通してお世話になった方々に恩返しすることができたと思います。

大学では、常に周囲への感謝の気持ちを持ちながら看護の知識や技術を養い、沢山の人を幸せにできる看護師になりたいです。

★就職体験記★

『準備することの大切さ』

7組【文I】

（衣浦東部広域連合消防局）

私は、9月から10月にかけて行われた消防職員採用試験に合格することができました。ここでは、私が試験のために努力したことを皆さんにお伝えしたいと思います。

私が志望した消防本部の試験申し込みは、手書きでの書類提出でした。ネット出願が増えている中、手書きの書類が求められるということは、それが私の第一印象を決めることになり、とても重要なものになると考えました。自己PR欄は担任の先生に何度も添削してもらい、定規を使って縦と横の長さを測りながら、文字の幅を均一に整え、読みやすさを意識しました。申込書を仕上げることも試験の一部だ

と考え、時間をかけて丁寧に仕上げました。

二次試験で行われた個人面接の対策として、多くの先生方に面接練習をしていただきました。一人の先生だけでなく、さまざまな先生に見ていただくことで、より多くの改善点を知ることができるようえ、面接に慣れることもできました。

皆さんも、先生方の力を借りながら試験に挑んでみてください。

★藤田医大病院ジョブシャドウ体験記★

『目指す作業療法士像』

7組【文I】

藤田医科大学のジョブシャドウイングを通して、リハビリについての理解が深められ、作業療法士になりたいという気持ちが高まりました。

実際の大学病院のリハビリテーション施設を見学し、共同開発した機械や患者さんとリハビリしているところを見ることができ、将来のイメージを持つことが出来ました。電気を体に当て行う治療では、腕の筋肉に電気を当てると手首が上がってくるという治療法を実際に体験し電気の力で他の筋肉が動くことに驚きました。また、どのように歩いているのか、左右で歩き方に差があるのかなど調べることができる歩行を分析する機械がありました。歩き方が映し出され、分析しそこからリハビリに繋げることができる凄いい機械でとても印象に残っています。

将来は身体と心の両方のリハビリができる作業療法士になりたいと思っています。厳しい状況を乗り越えるための心の強さや知恵、講義や演習を通して具体的な作業療法士の仕事内容を学び、私の目指す姿である患者さんに寄り添い、頼られる作業療法士になりたいです。

★看護体験実習記★

『看護体験を通じて学んだこと』

3組【文II】

今回の看護体験を通じて、私は患者さんに寄り添い支える医療について学ぶことができました。そこで、患者さんに寄り添い、支える仕事がお医者さんや看護師さんだけではないことを知りました。身体が思うように動かなくなってしまった患者さんが社会復帰できるように支える作業療法士さんやそれぞれの患者さんに合った薬を調合する薬剤師さんなど、多種多面の支え方を知り、改めて支えるという重みを感じることができました。支える仕事の大切さを知り、支えられている人の笑顔を知ること、より強く自分も支える側に立ちたいと思いました。そして、患者さん一人一人に合った寄り添い方や、支え方を実際に自分で体験させてもらうことができ、術後間もなく傷口が痛むような患者さんには、車椅子を押すだけでも細心の注意を払う必要があるなど専門的なことについても学ぶことができました。大変な仕事の中で、看護師さんが笑顔で接することで患者さんも笑顔になるそんな魔法のような素晴らしい仕事を自分の目で間近に体験することができました。